

令和7年産水稻の高温対策のポイント

令和7年6月27日

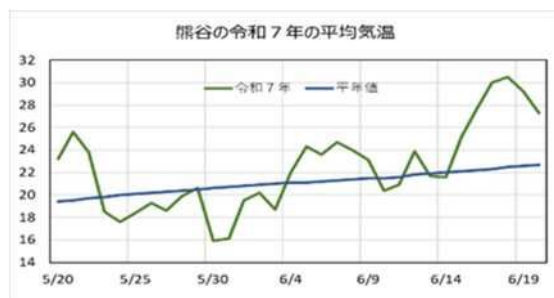
埼玉県農林部

高温障害の軽減には葉色診断に基づく施肥管理が重要です。また、水や肥料養分を吸収する根の働きを健やかに保つ適切な水管理も欠かせません。

ほ場を良く見て回り、生育に応じた栽培管理を徹底しましょう。

1 気象予報

関東地方の梅雨入りは6月10日でしたが、平年を上回る暑い日が続いています。気象庁が6月26日に発表した1か月予報では、平均気温は高く、降水量は平年並みか少ないと見込まれています。また、6月24日発表の3か月予報でも7～9月の気温は高く、7～8月は晴れの日が多いと見込まれています。



2 高温対策のポイント

高温条件下では「コシヒカリ」や「彩のきずな」などの中早生品種は幼穂形成期や出穂期が早まりやすくなります。また、「彩のかがやき」は幼穂形成期から出穂期までの期間が短くなります。高温により追肥や防除の適期が早まることがあるので、ほ場をしっかりと観察して適期作業に努めましょう。

(1) 早期・早植栽培（5月移植）の穂肥施用

農業技術研究センターの5/1植「コシヒカリ」及び5/20植「彩のかがやき」の生育は旺盛で、葉色は平年よりも若干淡くなっています（6月20日現在）。

ほ場をよく観察し、群落の葉色が「4」を下回った場合は、追肥を行いましょう。

「コシヒカリ」：出穂前18日頃に窒素成分で2kg/10a程度

「彩のかがやき」：出穂前23～22日頃に窒素成分で3kg/10a程度

「彩のきずな」：出穂前25～23日頃に窒素成分で3kg/10a程度

一発肥料体系でも高温下では緩効性肥料の溶出が早まり、登熟期に期待される養分供給量が不足する場合があります。穂肥施用時期に葉色を確認し、「4」（群落）を下回った場合は、上記に沿った追肥を行いましょう。

詳しくは、農業技術研究センターHP掲載の「彩のかがやき」や「彩のきずな」の栽培指針・栽培暦をご覧ください。

(2) 普通期栽培（6月移植）の中間追肥

高温等により葉色が「4」を下回った場合は、中間追肥を行いましょう。

「彩のかがやき」：移植後 30～35 日頃に窒素成分で 2 kg/10a 程度

「彩のきずな」：移植後 20～25 日頃に窒素成分で 1 kg/10a 程度

(3) 根を健やかに育てる水管理

出穂期以降は、田面近くの「うわ根」が活動の主体となります。根の活性を維持するため、出穂後 7 日以降から間断かん水を行います。1 週間を 1 サイクルとし、湛水と断水を 3～4 日で繰り返しますが、強い断水は根に物理的なダメージを与え養分吸収を阻害するので避けます。

麦あと栽培では、高温下では有機物の分解に伴い土壌還元が急激に進むため、根に有害なガスが発生しやすくなります。ほ場に踏み込んだ時に土壌中からどぶ臭のある気泡が上がる場合には、移植 2～3 週間後を目安に一度落水し田面を 1～2 日露出させガス抜きを行います。

3 イネカメムシの防除

イネカメムシの防除時期の目安は、1 回目が出穂期から穂揃期、2 回目が穂揃期の 7～10 日後となります。1 回しか行えない場合は「出穂期から穂揃期」の防除を優先してください。